伝 勅使塚古墳の三角縁神獣鏡

でん ちょくしづかこふんのさんかくぶちしんじゅうきょう

文化財愛護シンボルマーク

名　称	三角縁神獣鏡	所 在 地	加古川市平岡町新在家 1224-7
別　称	三角縁獣文帯三神三獣鏡		加古川総合文化センター博物館
数　量	１面	所 有 者	加古川市教育委員会
寸　法	径 22.0㎝	指　　定	加古川市指定文化財
重　量	825g	指定分類	考古資料
材　質	青銅製	指定名称	三角縁神獣鏡
時　代	古墳時代前期　４世紀	指定年月日	平成２(1990)年 10 月 11 日

三角縁神獣鏡（伝 勅使塚古墳）

この考古資料は、勅使塚古墳で採集されたといわれている古墳時代前期の青銅鏡です。

勅使塚古墳は、日岡山古墳群を構成する古墳のひとつで、全長約54.5ｍの前方後円墳です。発掘調査が行われていないため、埋葬施設や副葬品などの詳細はわかっていませんが、昭和44（1969）年に後円部頂上の落葉の上で、三角縁神獣鏡１面が発見されました。この鏡は、勅使塚古墳の西約300ｍに位置する南大塚古墳から出土したものが、何らかの理由で移動した後に、勅使塚古墳で発見された可能性が指摘されていますが、詳細はわかっていません。

青銅鏡とは、銅に錫や鉛などを加えた合金を高温で溶かし、鋳型に流しこんで製作した鏡のことで、多種多様なものが存在します。このうち、三角縁神獣鏡は、断面が三角形の縁をもつ大型の神獣鏡で、古墳時代前期の古墳から出土することが多いものです。

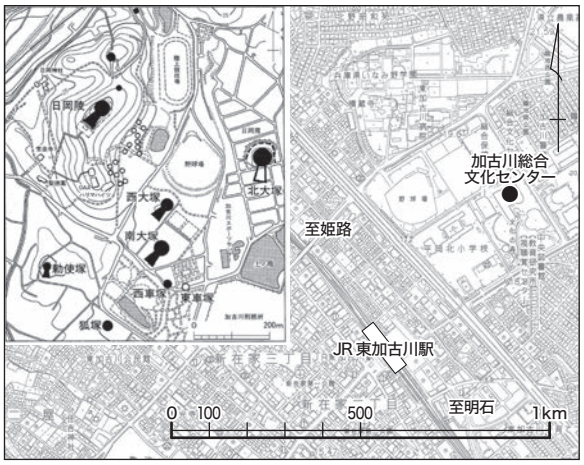
三角縁神獣鏡には、中国製（舶載鏡）と日本製（仿製鏡）のものがあります。その当初は中国の王朝から入手していたものを、後に日本で製作するようになったと考えられており、基本的には舶載鏡が古く、仿製鏡が新しいと考えらています。

また、三角縁神獣鏡には、同じ鋳型あるいは原型によって製作されたもの（同笵鏡・同型鏡）が多く存在し、その分布状況から、ヤマト政権が地域首長に配布した貴重な器物と考えられています。

伝勅使塚古墳出土の三角縁神獣鏡は、鏡背に表現された図像や文様、またこれらの組合せから、三角縁獣文帯三神三獣鏡とも呼ばれています。この鏡は、仿製鏡と考えられており、同笵鏡が福岡県糸島市の一貴山銚子塚古墳から出土しています。

このように、この鏡は、出土場所などがはっきりとしませんが、同じ日岡山古墳群の東車塚古墳から出土した三角縁神獣鏡などとともに、古墳時代前期における加古川下流域を考えるうえで、たいへん貴重なものです。

（文、写真、計測／平尾）



日岡山古墳群分布図及び展示場所

●参考文献

「勅使塚古墳・狐塚古墳」西谷眞治、「南大塚古墳」高野政昭（『加古川市史』第四巻史料編Ⅰ　加古川市、1996年）

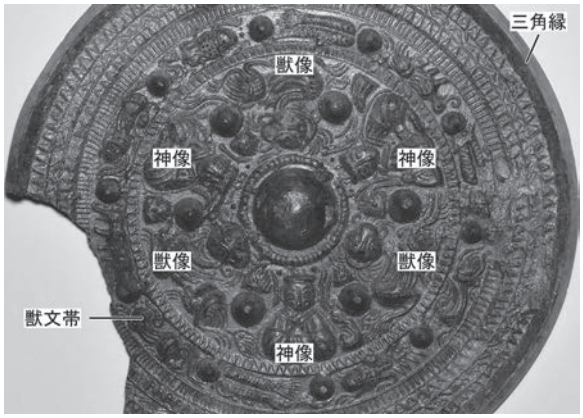
『考古資料大観』第５巻　車崎正彦編　小学館（2002年）

『三角縁神獣鏡の研究』福永伸哉　大阪大学出版会（2005年）

『副葬品の型式と編年』古墳時代の考古学４　一瀬和夫ほか編　同成社（2013年）

●キーワード

古墳、前方後円墳、日岡山古墳群、勅使塚古墳、南大塚古墳、青銅鏡、三角縁神獣鏡、三角縁獣文帯三神三獣鏡、舶載鏡、仿製鏡、同笵鏡、同型鏡、一貴山銚子塚古墳



伝　勅使塚古墳出土三角縁神獣鏡の各部の名称

●出土地／加古川市加古川町大野（不詳）

●所在地／加古川市平岡町新在家1224-7
（保管場所）加古川総合文化センター博物館

●交　通／JR神戸線「東加古川」駅から北へ徒歩10分
車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から北東へ1km

編集発行：加古川市教育委員会　文化財調査研究センター
平成30年3月30日（2018.03.30／1000）